

事業所における自己評価総括表(公表)

COMPASS 発達支援センター・飯塚



○事業所名	COMPASS発達支援センター・飯塚		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 12日	～	2025年 9月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 1	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	2025年 9月 12日	～	2025年 9月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 17日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	COMPASSでは全国に事業所を展開しており、系列事業所との連携があります。各担当者が会議や勉強会をおこない、事例検討なども含めて多様な視点からの意見を取り入れ、計画書や日々の療育に反映しております。	各担当毎に事業部内で担当グループが形成されており、担当グループ主体での会議や勉強会が実施されています。複数の地域に事業所があるので、不明な点は指定権者に確認をし、法令に沿った事業所運営をおこなっております。	児童が楽しみながら通ってくる事業所、成長を感じられる事業所、安心して通ってもらえる事業所を常に考えながら、決められたルールを遵守して取り組んでまいります。
2	少人数での支援体制のため、常に職員が児童一人ひとりに丁寧に関わることができる点が強みです。個別対応を通して、児童の特性やその日の状態に合わせた柔軟な支援がおこなわれています。小集団での関わりや、他児との協調・コミュニケーションの機会を増やすことで、より多様な社会的経験を積む環境づくりが期待されます。	少人数の環境を活かし、職員が一人ひとりの表情や行動の変化に丁寧に気付けるよう、日々の記録やミーティングで共有をおこなっております。活動内容も児童の興味や得意分野を踏まえて個別に調整し、達成感や安心感を得られるよう工夫しております。また、個別支援の中でも、同じ空間で他児と関わるきっかけを意識的に取り入れ、あいさつ・順番・協力といった社会的スキルが自然に育まれるよう働きかけています。	今後は、個別支援で培った児童との信頼関係を基盤に、少人数のペア活動やグループ活動を段階的に取り入れてまいります。活動を通して、他児との関わりや協力、思いやりなどの社会的スキルを育むことを目指します。また、職員間での支援方法や声かけの工夫を共有し、個別支援と集団支援の双方がより効果的に機能するよう体制の整備と質の向上に努めてまいります。
3	・児童一人ひとりの興味・関心に合わせた活動プログラムを提供しております。 ・職員が利用者様との関係づくりを大切にしており、安心して過ごせる環境を整えております。 ・活動内容に季節感や行事を取り入れ、変化のある支援を心掛けております。	・毎回の活動前後に児童と職員と一緒に振り返りをおこない、楽しかったことや、次にしたいことを話し合っております。 ・活動選択の機会を設け、児童が主体的に関わる時間を増やしております。 ・保護者様への連絡帳や写真共有等を通して、ご家庭との連携を図っております。	・地域資源(公園・図書館・公共施設など)を活用した外出活動の充実を計画してまいります。 ・新しい遊び・療育教材の導入により、児童の興味・関心の幅を広げることができるよう努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在、保護者様同士の交流機会やきょうだい向けのイベントが十分に整っていない点が事業所の課題となっております。保護者様の孤立防止や家庭内での支援力向上のため、定期的な交流会やきょうだい児を含めたイベントの企画を検討する必要があると考えております。今後は保護者様のニーズを取り入れ、参加しやすい形式・内容で継続的な取り組みを進めてまいります。	保護者様同士の交流やきょうだい児への支援機会が十分に確保されていないことが課題として挙げられます。今後は、保護者様が安心して相談・共有できる交流の定期開催等の検討をしております。	現在、保護者様同士の交流やきょうだい児への支援機会が十分に確保されていないことが課題であると考えております。保護者様の孤立感を防ぎ、家庭内の支援力を高めるため、定期的な交流会やきょうだい児も参加できるイベント等の企画を検討してまいります。今後は保護者様の意見を取り入れながら、ご家族全体が安心して関われる環境づくりに努めてまいります。
2	・感情が高ぶった際や環境から一時的に離れた児童に対して、十分に落ち着けるクールダウンスペース(個室)が確保されていません。 ・限られたスペースの中で活動エリアと静かな環境を分けることが難しく、状況によっては他児の影響が生じる場合があります。	・建物の構造上、完全な個室スペースを設ける物理的な余裕がありません。 ・利用児童数や活動内容の多様化により、スペースの使い分けが難しくなっています。	・パーティションや簡易テント、クッションマット等を活用し、簡易的でも安心して落ち着けるスペースを設けてまいります。 ・クールダウンスペース利用後のフォロー(気持ちの振り返り・安心確認)を支援の流れとして定着できるよう取り組んでまいります。
3	職員の経験年数や専門性にはばらつきがあり、支援内容に一貫性を持たせることが課題となっております。また、保護者様や関係機関との情報共有において、職員全体の理解と対応力の向上が必要であると考えております。	・業務が多岐にわたる中で、時間的余裕が少なく職員育成や振り返りの時間が確保しづらい時があります。 ・定着率や勤務形態の多様化により、支援ノウハウの継承が難しい面があります。	・現場訓練やロールプレイ等、実践的な学びの場を定期的に設けてまいります。 ・外部研修・専門家の助言を取り入れ、支援スキル・障がい理解の深化を図ってまいります。 ・業務分担やスケジュール調整により、児童一人ひとりと関わる時間を確保してまいります。

